

水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

		・岩手県農林水産部水産振興課 ・岩手県沿岸広域振興局水産部大船渡水産振興センター		
目的	荷さばき作業の迅速化、漁獲物の品質の安定化を図り、漁業所得の向上につなげ、輸入品に対抗できる地域水産業の競争力を強化する。			
目標	衛生面の強化等の取組により、生食用殻付きカキの単価向上を目指す。	1-002		
事業実施主体	大船渡市漁業協同組合			
実施地区	岩手県大船渡市赤崎地区			
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度		
	令和2年度	令和5年度		
助成金額	29,120千円			
事業計画の内容	施工内容：集出荷作業の効率化及び衛生面の強化のため荷さばき施設を整備するもの ・実施設計費 ・本体施設工事費 鉄骨平屋建(床面積222.3m <sup>2</sup> )、電気設備一式、機械設備一式、 アスファルト舗装 ・都道府県附帯事務費			
評価	取組の目標 (K P I)	漁業所得（養殖漁業）の10%向上		
	基準年	(令和元年度時点) 1,497千円		
	現状値	(令和5年度末) 2,234千円	増加率	49%
	目標値	(令和5年度末) 1,650千円	増加率	10%
	成果目標	生食用殻付きカキの単価		
	現状値	(令和5年度末) 943千円/トン		
	目標値	(令和5年度末) 826千円/トン		
	(1) 現状値の説明	取組の目標 (K P I) 事業実施主体が構成員となっている大船渡市地域水産業再生委員会が第2期浜の活力再生プラン達成状況(中間)報告作成のため、各構成員に報告を求め取りまとめたデータである(事業計画策定時に同じ)。浜の活力再生プランに掲げる取組の着実な実施により養殖物の単価が向上するなど養殖漁業所得は目標を上回る増加となった。 成果目標 県事務取扱要領の規定に基づき、事業終了の翌年度から起算して3か年間、毎事業年度末で作成した施設等の管理運営状況報告を5月末までに市町村長を経由して提出を求めており、その際に合わせて提出される根拠資料による実績を現状値とした。岩ガキを含む生食用殻付きカキの出荷数量は減少傾向にあるものの、販路拡大の取組を通じて市場からの引き合いが		

	強まったこともあり単価は目標値を上回る増加となった。
(2) 地域への経済効果	<p>岩ガキを含む生食用殻付きカキの単価(令和5年度)は 943 千円/トンであり、基準年 814 千円/トンの 16%、目標値 826 千円/トンの 14%と、何れも 10%以上の増加となった。</p> <p>事業実施地区である大船渡市赤崎地区生食用殻付きカキの評価の高まりから、気仙広域全体の養殖カキ単価(令和5年度)も 457 円/kg と、基準年(H26～30年度)の 314 円/kg を 46%上回るなど、地域全体の底上げにも貢献している。</p> <p>また、好調な養殖カキなどに支えられ、養殖業所得(令和5年度)2,234 千円と、基準年(平成元年度)1,497 千円を 49%上回り、目標年(令和5年度)1,650 千円もクリアするなど、経済効果は大船渡市内に止まらず気仙広域水産業再生委員会地域に及んでいる。</p>
(3) 所見	成果目標も達成されており特段の所見はない。
(4) 評価機関の意見等	該当無し
今後の改善方向等に関する分析	<p>整備した施設は有効に利用されており、成果目標も達成していることから、引き続き、気仙広域の養殖カキを牽引する施設として赤崎ブランドを維持する。</p> <p>近年は夏季の海水温が上昇していることから、海洋環境の変化に対応し、生産量を維持するよう取り組む必要がある。</p>

別表（別記様式第15-4号関係）

水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

・岩手県農林水産部水産振興課  
・岩手県沿岸広域振興局水産部宮古水産振興センター

目的	新規に養殖施設9台（幹縄150m×2本）を整備し、生産規模とシェア拡大による新規顧客の増加、流出顧客の減少、単価の向上等による地域水産業の競争力を強化するものである。				
目標	養殖わかめ、養殖こんぶの生産数量を現状から59t増大させ、競争力の強化を図る。	1-001			
事業実施主体	重茂漁業協同組合				
実施地区	岩手県宮古市重茂千鶏・石浜地区				
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度			
	令和2年度	令和5年度			
助成金額	11,740千円				
事業計画の内容	養殖施設：複列9台（幹縄150m×2本／幹縄総m数2,700m）設置工事				
評価	取組の目標（KPI）	漁業所得（岩手県宮古市重茂地区における養殖漁業、採介藻漁業の水揚）の向上			
		基準年	（平成26年度～平成30年度の5中3）1,696千円		
		現状値	（令和5年度末）1,378千円	増加率	-19%
		目標値	（令和5年度末）1,934千円	増加率	14%
	成果目標	養殖施設の整備による養殖わかめ、養殖こんぶ生産数量の増産を図る。			
		現状値	（令和5年度末）1,267t／年		
		目標値	（令和5年度末）1,470t／年		
	(1) 現状値の説明	令和5年産の養殖わかめは、高海水温の影響で芽出しの遅れによる生育不良、養殖こんぶは急激な海水温の上昇によるスソ枯れの進行が早く、大幅な減産となり、成果目標は達成されなかった。			
		(2) 地域への経済効果			
		養殖漁業生産量の回復・向上、漁業担い手の確保・育成、水産物の付加価値向上及び漁業所得の向上に寄与している。			
(3) 所見					
地球温暖化による海水温の上昇の影響で、成果目標の達成率86%と目標を下回ったが、共販入札価格の高騰により、漁家経営の収益拡大につながった。					
(4) 評価機関の意見等			該当なし		
今後の改善方法等に関する分析	養殖漁業者と漁協が連携し徹底した養殖管理及び適正な間引きを行い、また、大型種苗であるわかめ半フリー種苗（人工種苗）及び成熟誘導技術により生産したこんぶ人工種苗を養殖漁業者に安定供給し、高水温化による芽出しの不調や養殖期間の短縮に対応することで、生産数量の増産に取り組むこととする。				